
そして、賽は投げられた

緋雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして、賽は投げられた

【Nコード】

N2703Z

【作者名】

緋雨

【あらすじ】

青は幸運イベント発生マス。赤は不幸イベント発生マス。緑のマスは一回休みで、黄色は特別イベント発生マス。それはサイコロの目を振って進める単純な人生ゲーム。そう、それが本当に“自分の人生をかける”ゲームじゃないこと以外は。

「元の世界に帰りたければ、見事ゴールしてみせよ」

一度も姿を現さない気分屋な神サマとやらを殴ってやりたい衝動を

抑えつつ、異世界と言うボードの上を進むあたしたち兄妹。
理不尽な目にあったりラブレント起こったり、時には裏切り、協
力しながらゴールを目指す冒険物語……のはず。

0 ターン目：ゲームの始まり

はるか昔、あたしたちが生まれるよりもっと前。
古代ローマの某有名な軍人は、一つの決断をしたと言う。

『ここを渡れば人間世界の悲惨ひさん、渡らなければわが破滅』

ローマ帝国本土との境界線であるルビコン川は、北の防衛線でもあつたため、そこを軍隊で越えるのは法で禁じられていた。それを彼は、軍隊を率いて越えようとしていたのだ。

『進もう、神々の待つところへ！ 我々を侮辱いじした敵の待つところへ！』

躊躇ちゆうしゆする軍隊を前に、彼は高らかに告げた。

『賽さいは投げられた！』

ルビコン川を渡った彼の行動は、それをもししなかったらと言う過程の予測で、歴史が大きく現在のものとは変わっていたのではないかと言われている。

いや、あたしはそんなことが言いたいんじゃない。

【賽は投げられた】

事はすでに始まってしまったのだから、結果はどうなるうとも断行あるのみである。

そんな意味を持つこの彼の言葉が、今のあたしの状況をそのまま表しているってことを伝えたいだけなんだ。

「さあ、千夜^{チヤ}。お前の番だ」

黒い羽を背中に生やした彼が囁く。

まるで悪魔の囁きみたいだ、なんてそんなことを思った自分に自嘲した。彼は悪魔よりももっと性質^{たち}が悪そうだし、こんなことを思うなんて悪魔に失礼だ。

「おい、あんな低俗^{ていぞく}なヤツと同じにすんな。オレサマはもっと」

「はいはい。邪魔だからさっさとそこどいてねー」

軽くあしらうと、彼は小さく舌打ちしてテーブルから離れた。

繊細^{せんさい}なデザインをあしらわれた黒のテーブル。同じようなデザイン

ンと色をしたチェアに座ったあたし。それ以外は何もない、ぼんやりと薄暗い空間。

テーブルの上に置かれた盤ボードの上には、二つの駒こま。

あたしはそこに向かって、手の中にあるこの正四面体サイコロを投げるだけ。それだけ。

あたしに向けられる三対の瞳。

きつと、あたしたちには見えないもう一对の瞳があるんだろうけど。そいつに向かってこれを投げてやりたい。

全力で投げてその忌々しい目にも命中したらきつと少しは気が晴れると思うんだよね。

痛いほど感じるその視線を受けて、あたしは震える手でそつとそれを転がした。

「さあ、賽は投げられた」

見えない誰かがコロコロと転がるそれを見て、にやりと笑った気がした。

0 ターン目：ゲームの始まり（後書き）

プロローグみたいなものです。さーせん、特に深い説明等何もなくて……

ちなみに先に言います、登場人物めっちゃ多いです。

これだけだとシリアスっぽいかもしれませんが、そんなことないです。色んなジャンルになりそうなので（シリアス・ほのぼの・ギャグ・らぶ？）カオスになるやもですが、一緒に楽しんで頂けると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2703z/>

そして、賽は投げられた

2011年12月21日00時50分発行